

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施 設 名：グループハウスかわかみ

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上福田 1 2 0 1 番地 2 3

施 設 種 別：共同生活援助

運 営 主 体：社会福祉法人 慶光会

施 設 長 名：花原 翔

評 価 月 日：令和 8 年 3 月 2 9 日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：B 法人の理念・基本方針は年度当初の全体職員会議での確認や、ホームページ・パンフレット等により周知を図っているが、細部まで浸透しきれていない。
I-2 計画策定	評価：A 法人の基本方針を基に事業所としての事業計画を策定し、支援員会議、世話人会にて管理者より理念・基本方針の実現に向けた目標を明確に伝えた。また、毎月の事業所会議にて進捗状況の確認を行った。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：B 利用者支援においては毎月の事業所会議で現状の把握や評価・分析を行い、必要な支援についての道筋を示した。重度・高齢化が進んでいるため、業務の効率化や人員配置の提案を行い、継続的な検討を行った。
II-1 経営状況の把握	評価：B 法人の経営状況については毎月開催している管理職会議でも本部からの経営状況の報告を受け、法人全体と事業所の状況把握に努めた。計画通り進まない状況が続いたため本部とも連携し、計画の見直しと他事業所との連携を行った。
II-2 人材の確保・養成	評価：B 働きやすい職場環境作りを目指し、できる限り希望に添えるよう休日を含めた労務管理を行った。法人全体の教育計画に沿った研修会の参加や、個人のスキルアップも推進した。
II-3 地域との交流と連携	評価：B 利用者と地域の関わりについては、地区社協の行事を通じ、地域の方と交流を行った。また、毎週末の買い物や外出等を通して地域の商店の方々との交流につながっている。

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	評価：B 全職員が人権擁護、虐待防止に関するセルフチェックを行い、その結果を基に日々の実践の振り返りを行った。その他、事業所会議にて、虐待防止に関する研修会を開催し、利用者主体の支援について再確認と検討を行った。 余暇支援に関するアンケートを実施し、利用者の思いを把握し実現できるよう取り組んだ。また利用者主体の日帰り旅行を計画し、実施した。
Ⅲ-2 サービスの質の確保	評価：A 支援記録システムを活用し、一人ひとりの利用者の状況について共有を行った。毎月の事業所会議では日々の困りごとの共有と検討を行い、チームでの協力体制をとりながら実践を行った。 困難ケースを中心に関連機関が参加したケース会議も開催し、課題解決に向けて多角的な視点から検討を行った。
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	評価：A サービス利用開始時には、契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、サービス内容や料金についても分かりやすく丁寧に説明を行った。見学、体験利用等の希望にも対応した。
Ⅳ-1 利用者に応じた個別支援プログラム	評価：A 定期のモニタリング時に各利用者・家族の要望を確認し、個別支援計画の策定や見直しを行った。見直す際は事業所会議にて検討し、会議に参加できなかった職員へも伝達を行った。支援計画は支援の目標・方法・期間を定め、サービス開始前に説明を行った。
Ⅳ-2 日常生活支援サービス	評価：B 高齢に伴う変化や病状による変化に対応するため、看護師・栄養士等とも連携し、摂取環境や食形態、介助方法等の整備、見直しを行った。 献立もそうだが余暇活動も利用者の希望を取り入れたものを企画し、利用者主体の生活となるよう取り組んだ。
Ⅴ-1 生活環境の整備	評価：A 高齢化や病状の進行に伴う変化があっても安心・安全に暮らせる生活環境となるよう、福祉用具の活用を行った。 新規利用受け入れについては、利用されていた機関や保護者と綿密な情報交換や特性の共有を行い、スムーズに新生活がスタートできるような住環境の整備を行った。 年齢層の幅広さや障害特性の多様化など、個々に合わせた対応に難しさはあるが、今後もできる限り個別性に対応した住環境の整備を行っていく。

VI-1 緊急時の対応	評価：A 法人で災害時BCP、感染症対応BCPが策定され、有事の際は各BCPに沿って行動できるよう整備された。緊急時に迅速に対応できるよう、避難訓練や救急蘇生法講習会を開催した。
VII-1 就労意欲の醸成	非該当。

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* VII-1 「就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。